

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597200017		
法人名	社会福祉法人和木三志会		
事業所名	グループホームわきあいあい苑		
所在地	山口県玖珂郡和木町瀬田4丁目1番1号		
自己評価作成日	令和 1年 9月23日	評価結果市町受理日	令和 2年 2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和1年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者やご家族の思いに寄り添い、安心して生活していただけるよう支援している。 ・公園内という立地を活かし、散歩に出かけて季節を感じていただくとともに、近隣の方々と交流を図っている。 ・毎食手作りの食事を提供し、入居者に合わせた形態や量にしたり、好きなメニューにしたりと、楽しんで食事をしていただくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>食事は、利用者の好みを取り入れた献立を立てられ、三食とも事業所で調理されています。法人の畑で収穫した旬の野菜を活用され、食器や盛り付けにも配慮されて季節感のある食事を提供しております。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、お盆拭き、下膳などできることを職員と一緒にされ、同じテーブルを囲んで食事を会話をしながらおられます。誕生日には利用者の好きなものをつくられたり、季節の行事食やおやつづくり、近隣のバラ園でお弁当を食べられたり、施設の外にテーブルを出しておやつを食べられるなど、食事を楽しむことができるように支援しております。利用者一人ひとりの趣味嗜好を把握され、テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折紙、脳トレ、歌、カルタ、トランプ、ゲーム、パズル、間違いさがし、カード合わせ、ラジ体操、口腔体操、風船バレー、洗濯物干し、洗濯物たたみ、タオルたたみ、食事づくり、ゴミ袋づくり、編み物、ごみ捨て、野菜の収穫、おやつづくり、法人施設で行われる季節の行事への参加など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされて、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、管理者と職員で話し合う事で、その理念が実践できるように努めている。もう一度理念の意味をスタッフ全員で考え、入居者方々が地域と共に生きている安心感や充実感を感じていただけるよう努める。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、朝夕の申し送り時に確認して共有し、利用者と家族の思いに寄り添って安心して暮らせることを日々の業務の目標とし、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へ散歩に出かけた時に交流をしている。苑の盆踊りの際には、案内状を出して来苑していただいている。また、地域の子供会の方々にも参加していただき交流を図っている。	併設している法人主催の盆踊り大会に地域住民や子ども会、ボランティアが参加し、利用者と一緒に盆踊りや模擬店を楽しんでいる。法人の他施設で開催しているお茶会に参加したり、そこに来訪しているボランティアによるカラオケ、踊り、フラダンス、手品を見学している他、デイサービスやショートステイを利用して人とも交流している。中学生の体験学習をうけいれている他、管理者が介護に関する研修会の講師として参加したり、地域のサロンに職員が出向いて、グループホームの説明や認知症の理解について話をしているなど、啓発活動を行っている。近所の公園に散歩に出かけたときに、近隣の人と挨拶を交わし、花をもらったり、公園に来ている人とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンに出向いたり、町内で開催された在宅医療介護連携研修会に参加し、グループホームの説明や支援方法等の説明をし、理解に向けた活動をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	「自己評価項目・外部評価項目の考え方の指針と着眼点」を職員全員で読み、自己評価はミーティングで職員から意見を聞いたうえでまとめている。外部評価結果を職員に配布し繰り返し話し合っ、目標達成計画を立てている。	職員全員で自己評価のガイド集を基に、各項目の考え方の指針と着眼点について学習し、各職員から申し送り時や日々の業務の中で意見を聞き、管理者がまとめている。評価を通して、外出の機会が減少していることから、個別による支援も併せて普段とは違う場所へ買い物に行くなど、日々の業務の振り返りをする機会としている。	・項目の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、半年に1回デイサービスと合同で行っている。会議の後、GH内でミーティングを行い、ご家族、民生委員の方々の意見等を報告し、サービスの質の向上に繋がるよう、改善ができる事などの話し合いを行っている。	会議は年6回開催し、その内2回は法人のデイサービスセンターと合同で開催している。利用者の現状、事業所の活動報告、研修報告、事故報告、感染症対策、火災訓練の報告、外部評価の結果を説明し、意見交換を行っている。家族からの意見を受けて、体を動かすための定期的な散歩やレクリエーションを取り入れたり、地域包括支援センター職員から講演の案内があるなど、意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に情報交換をしたり、相談や助言をいただき連携を図っている。	市担当者とは、直接出向いたり、電話で相談して助言を得たり、情報交換を行い協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議出席時や電話で事例の相談や情報交換を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修をし職員間で共通理解をする事で、入居者の人権に配慮した身体拘束のないケアをしている。	法人の身体拘束廃止委員会や、法人研修で学び、職員は抑制や拘束のないケアに努めている。スピーチロックについては、気になる時には管理者が指導している。日中玄関の施錠はしておらず、外出したい利用者には、職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修を行い、通報先等を確認している。また、複数の職員が関わることで、事業所内での虐待が見過ごされる事が無いようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	山口県社会福祉協議会等から出される、権利擁護に関する資料やホームページに掲載されている情報を基にして研修を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って十分説明し、理解・納得していただいている。また、面会時を利用し随時必要な情報を報告し、不安や疑問点の軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受付体制等の説明を行うことで、利用者や家族が意見を出しやすい様にしている。また、入居者の様子を家族へ電話で報告したり、面会時の会話の中で思いを聞き、その意見を職員間で共有し、運営に生かすようにしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。家族からは、面会時や運営推進会議時、介護計画作成時、行事参加(盆踊り)時、電話で意見や要望を聞いている。利用者の様子は、電話で家族に報告している。ケアに対する要望は、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや勉強会等で職員からの意見を聞き、運営に生かしている。また、職員が意見を出しやすい職場づくりに努めている。	管理者は、朝夕の申し送りや日々の業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、年1回、職員のストレスチェックを行っている。利用者のケアの方法にはその都度対応しており、職員の有給休暇の取得の促進など、働きやすい環境づくりに努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の能力を発揮して働くことができるように、キャリアパスを導入した給与規則の改定に取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、内部研修を行っている。外部研修は個々に合った研修に参加するように促している。資格取得や希望のあった研修に参加するための支援も行っている。	外部研修は、情報を職員に伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加できる機会を提供している。グループホーム協会の研修や地域のブロック研修などに参加している。法人研修は、年間計画に沿って、身体拘束、高齢者虐待、認知症ケア、感染症、食中毒予防、褥瘡予防、事故発生時の対応、看取りなど実施している。参加した職員は申し送りで報告し、資料は回覧している。資格取得については業務を調整するなどして対応している。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会に参加、交流している。また、併設している特養やデイサービスとも交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談において本人から話を聞き、家族やケアマネジャーからの情報も踏まえて、本人の意向を引き出し安心して話せるように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や入所準備の段階からご家族と連絡を取り、ご家族の意向を伺うことで、信頼関係を築く様に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズを把握し、入所時のケアプランに反映させている。必要に応じて他のサービスも考えていきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて役割を持った生活を送れるよう、寄り添う気持ちで支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡により家族と情報を共有し、本人と家族の関係にも配慮しながら支援を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設している特養やデイサービスを利用されている馴染みのある方とも交流できるよう支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、併設する法人のデイサービスやショートステイ利用者、ボランティアなどの来訪がある。事業所で外出した時に馴染みの場所へ行ったり、家族の協力を得ての自宅への一時帰宅、外食や近くの公園への散歩、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に気を配り、認知症の症状も考慮に入れ、より良い関係が保たれる様支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養への入所が必要になられた場合、手続きがスムーズに行われる様支援している。特養へ入所された後もグループホームへ遊びにきていただき、入居者との交流が継続できる様に支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向を伺うと共に、日頃の発言、行動などから思いを把握するよう務めている。本人が意向を伝えるのが困難な場合は、ご家族の意見を聞き、職員間で意見を出し合っている。	利用者情報を活用している他、日々の関わりの中での利用者の行動、表情、会話などを援助記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。利用者を担当している職員が毎月利用者のケアの内容についてアセスメントを行い、ケアプランに活かしている。把握が困難な場合は、家族から聞き取り、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の事前面接を通じて、生活歴などの把握に努めている。また、他のサービス事業所からの協力も得て情報収集を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での申し送りや日誌等の記録に目を通すことにより、現状把握をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向、医師の意見などを基本にして、サービス計画担当者、担当スタッフや他のスタッフの意見も採り入れて話し合い、ケアの見直しをはかっている。	計画作成担当者や利用者を担当している職員を中心に、ケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者や家族の要望、主治医や法人看護師、職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、年に1回見直しをしている。利用者の状態が変化した場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の状態を記録し、スタッフが勤務前に目を通すことで情報を共有している。朝・夕申し送りを行い、特に重要な内容については、詳しく説明・伝達をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方が入居されたので、ご家族に代わってできる支援を視野に、柔軟な取組をしていきたい。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用できるように情報収集に努め、地域の行事に参加していきたいと考えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の了解を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。往診や必要時には電話やファクス等の指示を受けている。受診については家族に連絡し付き添っていたり等々の協力をしていただいている。	利用者や家族の同意を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、週2回の往診がある。他科受診時は家族の協力を得て職員が受診の支援をしており、希望により訪問歯科の受診もある。受診結果は電話や面会時に家族に説明している。利用者が薬剤管理指導を受けており、月1回、薬剤師による服薬相談を設けている。夜間や緊急時は管理者に連絡し、法人看護師が対応しているなど協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の事業所の看護職員に相談し、入居者の健康管理について適切な対応を心がけている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族、病院関係者と情報交換し、より安心して治療を受けられる様、配慮している。また、通院時にはカンファレンスの機会を持っている。退院時には、これからの対応等について、ご家族を交えて決定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて、常に本人やご家族の意向を尊重し安心していただけるよう、主治医・併設の特養と連携を取りながら対応している。また、食事形態等について、看護職員や管理栄養士に相談し、柔軟に対応している。	重度化に関する指針があり、契約時に事業所ができる対応について説明している他、重度化した場合のアンケートで家族の意向を聞いている。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向を再度確認し、医師や法人看護師と相談し、医療機関や施設への移設も含めて方針を決め、全員で共有して支援に取り組んでいる。看取りにも対応し研修を実施している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハット事故報告書を記録し、対応策を話し合い、全職員に周知徹底している。看護職員から応急手当や対応の方法、観察する点などを学んでいる。	事例が発生した場合には、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、その日勤務している職員と法人看護師を交えて話し合っている。他の職員には申し送りで伝え、報告書は回覧している。管理者が法人の事故発生防止委員会に報告して再発防止に取り組んでいる。事故発生時の対応については、法人看護師による勉強会を実施し、職員は事故防止について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で火災及び災害時の避難訓練を行い、併設の特養との協力や避難方法を全職員で確認している。また、苑の行事を通じて、地域との協力体制ができるようにしている。	法人全体で年2回(1回は消防署の協力を得て)、昼夜間を想定した火災時の避難訓練、消火訓練、通報訓練、避難経路の確認を実施している他、年1回、地震や台風での土砂崩れを想定した避難訓練を利用者と一緒に実施している。法人として、災害時の要支援者の受け入れ体制を整備しており、缶詰や飲料水、米など備蓄用品を準備している。法人他施設との協力体制はできているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、お一人で入浴したい方への配慮や、紙パンツの使用が分からないようにするなど、プライバシーに配慮した対応をしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応に気づいた時は、その都度管理者が指導している。個人情報カギのかかる場所に保管しているなど、守秘義務に留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やってみたいレクリエーションを聞いたり、日常生活の中で、洗濯干しやお盆拭き・調理など、意欲のある人に声かけをし、役割をもって活動していただいている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力に合わせて自由に時間が使えるよう配慮し、希望に沿った活動ができる様声かけをしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室にて毎朝洗面支度をして頂いている。化粧の声かけや介助も行っている。入浴時には、衣服を選んでいただくなど、ご本人のレベルに合わせたお手伝いを心がけている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の食べたいものや好きなものを聞いたり、行事メニューや季節感のあるメニューを取り入れたりして工夫している。食事の準備、片づけも本人の能力に合わせて行ってもらっている。	食事は、利用者の好みを取り入れた献立を立て、三食とも事業所で調理している。法人施設の畑で収穫した旬の野菜を活用し、食器や盛り付けにも配慮して季節感のある食事を提供している。利用者は豆のすじ取り、芋の皮むきなどの下ごしらえやテーブル拭き、盆拭き、下膳などできることを職員と一緒にしている。利用者が食べやすい形や大きさなど、食事の形態を工夫している。利用者と職員は、同じ食事で、テーブルを囲んで食事を楽しんでいる。誕生日には利用者の好きなものをつくり、季節の行事食(おせち、節分のイワシ、ひな祭りのちらし寿司、敬老会の松花堂弁当、クリスマスのケーキ)、おやつづくり(羊羹、ゼリー、ぜんざい、ホットケーキ、パンケーキ、りんごのコンポート、シソジュース)、近隣のバラ園での弁当や食堂の利用、施設の外にテーブルを出しておやつを食べる、花見での外食、家族の協力得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をとることや水分補給の支援を行う事により、健康状態の把握に努めている。水分摂取については、食事以外にも食間や入浴後、レクリエーション後、また散歩の後などにも摂取してもらい、夜間はペットボトルを用意するなどしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアの声かけや介助を行っている。就寝前には義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。また、週に1度は歯磨き用のコップを漂白し、清潔保持をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけや定時誘導でトイレでの排泄を支援している。排泄の自立に向けて、入居者のペースに合わせた支援に努めている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを食べていただくことや、水分摂取に配慮している。また、朝食後にトイレ誘導をする事で、自然排便を促している。排泄チェック表により排便確認を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が1対1で対応し、ゆっくり入浴していただけるようにしている。また、一人で入浴したい方への配慮を行っている。四季それぞれの季節にはバラ湯や柚湯で入浴を楽しんで頂いている。	入浴は毎日、9時から11時までの間可能で、利用者の体調や希望に合わせて、週2回は入浴できるよう支援している。入浴したくない利用者には、時間や日にちの変更や職員の交代、声かけの工夫をしている。利用者の体調に合わせてシャワー浴や清拭、足浴で対応し、ゆず湯や入浴剤の使用など、入浴を楽しむ工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせ、活動や休息をとって頂いている。夜間はパジャマへの介助声かけを行っている。眠れない方へは温かい飲み物の提供等を行うことで、気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のファイルに処方箋を綴じており、職員がすぐ確認できるようにし、個々に応じた介助を行い飲み忘れや飲み残しの無いように努めている。週2回の医師の回診日に症状の報告を行っている。また、薬剤師の訪問時服薬の相談もしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、掃除、食事の準備の手伝い等、個々に合った役割をもっていただいている。好きなレクリエーションを楽しむ時間をつくっている。	テレビ(ニュース、歌番組、スポーツ番組)やDVD(歌番組、スポーツ番組)の視聴、新聞や雑誌を読む、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折り紙、脳トレ(漢字、計算)、歌、カルタ、トランプ、ゲーム、パズル、間違いさがし、カード合わせ、ラジオ体操、口腔体操、風船バレー、洗濯物干し、洗濯物たたみ、タオルたたみ、食事の手伝い(野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、盆拭き、下膳)、ゴミ袋づくり、箒のごみ取り、編み物、ごみ捨て、野菜の収穫、おやつづくり(ホットケーキ、ぜんざい、パンケーキ)、季節の行事(法人施設内に設置される神社での初詣、節句、雛祭り、七夕、敬老会、ミニ運動会、クリスマス)など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日に散歩に出かけてもらっている。また、外食やお花見などで外出する機会をつくっている。ご家族の協力で外出されることもある。	近くの公園まで散歩して、おやつを食べたり、ウサギを見たり、バラ園を見学している他、外にテーブルを出してのお茶や外気浴を楽しんでいる。季節の花見(桜、菖蒲、紅葉)や町内へのドライブ、外食、家族の協力得ての外出や外食、自宅への一時帰宅など、日常的に外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分で選んで購入して頂けるように支援をしたり、施設内の自動販売機でジュースを買えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人から電話や手紙の依頼があった場合は、支援ができる体制を整え、ご家族から電話があった場合も取り次ぎをしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と作成した季節に合わせた貼り絵を飾ったり、花を生けたりしている。温度管理を行って快適に過ごしていただけるよう配慮している。	共用空間には、季節の花が生けてある他、壁には利用者と職員が一緒に作成した季節の貼り絵やぬり絵が飾ってある。畳コーナーは洗濯物をたたむなど利用者の活動の場となっている。対面式のキッチンからは調理の音や匂いがして生活感や家庭的な雰囲気を感じることができる。室内の温度や湿度、換気に配慮して利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の共用空間では、入居者同士で語らう食卓と、一人になれるソファーや居室を活用し、食卓の席の位置など、できる範囲で居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていたものや、飾られていた好みの物などを持ち込んでいただき、安心して生活していただけるようにしている。	ダンス、衣装掛け、三段ケース、椅子、テレビ、時計、カレンダー、ぬいぐるみ、人形、アルバムなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真やぬり絵、折り紙などの作品を飾って利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時はトイレの距離等に配慮し、ご本人の能力に応じた居室提供や、生活に必要な物品の配置に気をつけている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームわきあいあい苑

作成日: 令和 2 年 1 月 30 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	自己評価・外部評価の結果について、職員間で共有はしているが、項目ごとの理解をより深め、活用する必要がある。	項目ごとの理解を深め、職員の質の向上に努める。	定期的に内容の確認を行い、個々でも全体でも振り返りを行っていく。 また、施設内研修・外部研修に積極的に参加し、知識も高めていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。